

平成30年度 大阪市立堀江中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪府中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

平成30年度 大阪市立堀江中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理 科	国語A	国語B	数学A	数学B	理 科
3 年	学校	184	74	61	65	44	65	4.3	4.5	3.6	17.0	6.3
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	184	51.1	47.7	57.1	55.4	59.5	19.7	5.8	12.1	8.5	5.1
	大阪市	—	51.6	48.1	56.7	56.5	56.2	16.9	4.6	10.5	7.2	3.8
9月4日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6

3 大阪市中学校3年生統一テスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	182	63.0	62.1	62.9	59.5	66.9
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

平成30年度 大阪市立堀江中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【中学生チャレンジテストの成果と課題】

- ・平均点について英語のみ大阪府を1.0点、大阪市を3.3点上回った。数学は大阪市を0.4点上回ったが大阪府を1.8点下回った。国語・社会・理科に関しては、大阪府および大阪市ともに平均点を下回った。
- ・平均無回答率については、全教科とも大阪府・大阪市を上回り、テストの受け方について課題を残した。

《国語》

「書くこと」「記述式」の問題については、大阪府平均を0.2～0.6ポイント上回ったが、その他の領域や観点では下回った。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「言語についての知識・理解・技能」において1.6ポイント下回った。

《社会》

「資料の活用の技能」は大阪府平均と同じであった以外、全ての領域・観点において大阪府平均を0.1～1.3ポイント下回った。

《数学》

全ての領域や観点において、大阪府平均を0.1～1.1ポイント下回った。

《理科》

「地学的領域」については大阪府平均を0.2ポイント上回り、記述式の問題では大阪府平均と同じであった。しかし、その他の領域や観点については0.2～1.5ポイント下回った。「科学的な思考・表現」について差が1.5ポイントある。

《英語》

「聞くこと」「読むこと」の領域、「外国語理解の能力」「言語や文化についての知識・理解」の評価の観点、「選択式」の問題に関しては、大阪府平均を0.3～1.6ポイント上回った。「書くこと」「外国語表現の能力」についていずれも0.5ポイント下回っている。

【今後に向けて】

全国学力・学習状況調査の結果とともに、チャレンジテストの結果をふまえ、次の方策もすすめていく。

《国語》は、基礎的な語彙力を付けるとともに、それを活用して話したり、書いたりできる思考力・表現力を伸ばす指導を工夫する。

《社会》は、時事問題を題材にして話し合う活動を取り入れたり、情報を分かりやすくまとめて発表したりする機会を設定する。

《数学》は、例えば、図形を動かすことや、グラフ化することなども可能なため、視覚的に理解させることができるため、協働的な学習においてタブレットを有効利用する。

《理科》は、観察・実験の学習活動を充実させ、「予想や仮説を立て、検証すること」「結果を分析して解釈できるようにすること」等、課題を設定して科学的に探究する活動を重点に取り入れる。

《英語》は、目的を明確化し、ペア・グループワーク、プレゼンテーションなど、説明したりする機会やC-NETと会話する機会を設け、授業内に英語を話す・聞く時間を確保し、今後も言語力・表現力の向上をめざす。とともに、基礎的な事項の繰り返し学習を「書くこと」で確認することやICT機器の有効活用で分かりやすく理解させる。